



令和6年度 第71回賀茂高等学校同窓会総会・懇親会報告

令和6年8月18日(日) 東広島芸術文化ホール(くらら)



令和六年八月十八日(日)「東広島芸術文化ホール(くらら)小ホール」にて第七十一回同窓会総会を開催しました。新たな会場は、西条駅ならびに賀茂高校からも徒歩圏内ということ、午前中は「賀茂高校ホームカミングデー」として学校を開放していただき、同窓生及びご家族の皆さんに母校を訪ねていただきました。

川崎会長を議長とする総会第一部では、事務局から提案し

た各議案について承認をいただきました。第二部の前半では、在校生の皆さんから、平和活動への取り組みや全国大会等で活躍するレスリング部の活動報告に耳を傾けました。後半は今回の当番回期である昭和四十九年卒の皆さんを主要メンバーとするバンドの演奏で会場を盛り上げていただきました。

その後の懇親会では、同会場



期ごとに数力所の懇親会場にて旧交を温め、楽しい時間を共有することができました。準備及び運営にあたられた当番幹事の皆さんには改めて感謝申し上げます。今年の第七十二回総会は、八月二十四日(日)「東広島芸術文化ホール(くらら)小ホール」にて開催する予定です。多くの同窓生の皆さんのご出席を願っております。



賀茂高等学校 同窓会 会誌 vol.16

令和7年7月15日発行

賀茂高等学校
同窓会事務局

東広島市西条西本町16-22
TEL (082) 423-2559

URL : <https://dousoukai.site/kamo/>
email : k_aoi20149@royal.ocn.ne.jp

第72回 賀茂高校同窓会 のお知らせ

日時

令和7年8月24日(日)

13:00 受付開始

14:00 総会開会

総会終了後に懇親会

総会会場

東広島芸術文化ホール
(くらら) 小ホール

当番幹事回期

S50年・60年

H7年・15年・25年卒

お問い合わせ

賀茂高校 同窓会事務局
k_aoi20149@royal.ocn.ne.jp

ごあいさつ



同窓会会長 川崎 信文（昭和45年卒）

同窓会会員の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと思います。2019年8月の会長就任以来、早いもので6年近くの年月が経過いたしました。就任の翌年以降、新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延によって、同窓会総会をはじめとする諸行事や同期会といった親睦の機会がさえ自粛ムードに包まれたことは記憶に新しいところです。

その間、経済社会では会話不要の契約やキャッシュレスの電子決済が急拡大し、また、そうした取引の媒体としてスマートフォンなどの情報端末が手放せなくなってきました。即応性や利便性が高まる一方で、非対面で匿名性の高い情報社会において、多発するフィッシング詐欺や個人情報漏洩及び不正利用など、年齢や立場を問わず私たち一人一人がその被害に巻き込まれる危険性は年々拡大していると言わざるをえません。当同

窓会では、そうした社会状況のもと、会員の皆様から提供していただいた個人情報等については関係業者との綿密な連携のもと、その管理の徹底と適正な活用に努めて参りたいと思います。引き続き同窓会の運営や活動についてご理解とご協力をお願いいたします。

さて、すでにご承知のことかと思いますが、母校、賀茂高等学校は、明治39（1906）年5月15日の私立西条女学校開設から起算して、来年の令和8年に創立120周年の節目を迎えます。本年3月には「賀茂高等学校創立120周年記念事業実行委員会」を組織し、学校及びPTAとの協働体制のもと、計画的に準備を進めているところです。本同窓会報（「かもあおい」第16号）には記念事業の実施に係る募金趣意書を掲載しておりますので、ご一読をいただき、母校のさらなる発展に向けた会員の皆様からの温かく、また、力強いご支援を心からお願い申し上げます。

賀茂高校のアイデンティティとは何か



第36代校長 奥原 義尚

日頃より同窓生の皆様には本校教育に対し格別の御理解と御支援を賜り、心から感謝申し上げます。

私は、この4月に赴任いたしました奥原と申します。本校との御縁は3度目となります。本校と20数年前に教諭として、10数年前に定時制課程の教頭として、そしてこの度、校長として務めさせていただくこととなりました。

10年余りを経て、本校に戻って感じることは、教育の姿が様変わりしたことです。コロナ禍への対応を経て、年間行事計画が変更され、以前のリズムとは全く違う1年間の流れとなっていたり、学校には毎日来るのが普通であるという意識が生徒たちに薄れてきたりしているように感じます。また、教育の情報化や新しい学習指導要領の実施により、ICT機器（パソコンやタブレット）を授業の他、様々な場面で活用する生徒たちの姿が日常の風景となり、

ペアワークやグループワークを取り入れた協同的な学習が主流となりつつあります。

一方、そのような大きな学校の変化の中でも、賀茂高校にとつて変わることのないアイデンティティと言えるものがありました。それは、正門を入ったところにある創立80周年記念碑に刻まれた3文字の漢字です。赴任したての4月6日第1学期始業式で私は生徒たちにこうに呼びかけました。

『本校には700人以上の存在として個性があります。その中で学校生活を過ごすときに大切なのはどんな態度でしょうか。そのことについて、私はある言葉にヒントがあると思っています。それは、本校の校是です。校訓ではなく校是です。校訓は時代によって変わる学校目標ですが、校是は学校創設時の思いを言葉で表したものです。本校が続く限り変わらない賀茂高校のアイデンティティです。石碑の言葉、「信・敬・愛」。この言葉は長い間、賀茂高生を見守ってきました。この3つの漢字、どんな意味か考えたことはありませんか？ もっと深い意味もあるのだと思いますが、私は簡単な言葉でみなさんに伝えたいと思います。「信・敬・愛——信頼・尊敬・愛情——、動詞にすると、「信じる 敬う 愛する」ですね。自分と違う多くの存在とともに学校生活を豊かにするために、「信」仲間を信じる、敬「仲間を敬う、愛」仲間を愛する」と「自分を信じる、自分を大切に思う、自分を好きになってあげる」こと、そして、「お互いを信じあう、お互いを尊重し合う、お互いを思いやる」こと、「信・敬・愛」を学校のみんなで実践することで、卒業する時には、「人から信頼される、人から尊敬される、人から愛される」、そういう人に成長してほしいと思います。』

赴任して数か月、「賀茂高生のアイデンティティは普遍で、教育がどんな姿に変わろうとも継承され続けるのだなあ」、ということを生徒たちの姿を見ながら感じています。そのことをここに記させていただき、同窓生の皆さんの中に脈々と受け継がれる賀茂高スピリットを、今後ともぜひ本校に熱く注いでいただきたいと思います。

来年度は学校創立120周年を迎えます。皆様の御支援、御協力を何卒よろしくお願いいたします。



同窓生だより

「卒業から50年近く」



島根県大田市在住

龍(天野) 文子(昭和53年卒)

私はあまり過去を懐かしんだり、思い出したりはしない性質である。だから、この度「かもあおい」の原稿を頼まれた時は正直焦った。いろんな思い出を思い出せるのかと。依頼を受けた日から、頭の中は賀茂高校でいっぱいになったが、すでに脳の老化は始まっているため、会話や影像是断片的にしか浮かばない。それが正しいのかどうかも定かではない。

こんな臆気な記憶の中から一つだけ頑張って取り出してみた。それは、1977年、3年5組の時の文化祭である。おでん、リンゴ飴、お菓子などの販売をしたのだ。すべてが手作りでクラスの皆で分担した。経緯は忘れたが、私がやろうと言ったと思う。「色々やるために元手があるので、1人当たり1,000円の協力をお願いします」

と教室で呼びかけた後、男子生徒に「売れなかったらどうするんや」と言われ、ドキッとした事はよく覚えている。その日、家に帰ってすぐに貯金通帳を確かめた。「もしかの時にはこれを使おう。余った物販はみんなで分けばいいや」そう腹をくく

り、私はやりた

いことに邁進した。若気の至りとはいえ、あまりに無謀である。先日、この原稿を書くにあたり、おでんの担当だった友達に情報を提供してもらおうと電話をかけてみた。すると開口一番「なんで私がおでんを作らんと



けんかったんや」と、耳元で吠えられた。彼女は非常に頭が良く、頼りがいがあり「出来る人」だったので、当時、軽くお願いしたのだが、そんな気持だったのかと50年近く経って初めて知った。そんな彼女が、「終わった後は、こんな文化祭もいいな」と思ったよ」とも言ってくれた。「ホッ」である。が、私にとつての高校生活一推しの思い出にこのような黒歴史もあったのかと、今更ながら反省をした。あの時、皆さんを振り回してすみませんでした。文化祭の結果は完売に終わり、一人ひとりから集めた元手の1,000円も返済。さらに利益を上げることも出来、担任の佐野先生を通して学校に寄付も出来た。たまたま結果オーライとなったのだが、今考えても冷や汗もの思い出である。

私は現在、世界遺産石見銀山遺跡のある島根県大田市大森町に住んでいる。嫁ぎ先が浄土真宗の寺院なので、報恩講、



永代経、安居会などの行事をこなし(追われ?)、ヨガ教室などもしている。また、年に2回の「坊守通信」(「ぼうもり」とは、多くが住職の配偶者)を発行している。以前、ご門徒さんのお宅にお参りした時、ひとり暮らしの年配の方が「年をとったら、良いことはひとつもありやーせん」こう言われ、何か出来ないかと思ったのが「坊守通信」を書くきっかけとなった。これを読んだとき、一瞬でもクスリと笑ってもらえればうれしい。この気持は今も変わらない。

この一週間、私にも高校時代が確かにあったのだと、珍しく思い出に浸った。母校の同窓会報「かもあおい」の不思議な縁は有り難い縁となつて気持ちを温かくしてくれた。たまには過去を振り返るのもいい。かもあおい。賀茂高校だけに。おあとがよろしいようで…。



【事務局から】

石見銀山遺跡は2007年に世界遺産に登録されました。重要伝統的建造物群保存地域の入口近く、銀山川沿いに位置する浄土真宗本願寺派西性寺。本堂となりの経蔵には精巧で美しい鍍絵(こてえ)が施されています。大森地区を散策の際には訪ねてみてください。

賀茂高校の近況

部活動成績等

◆レスリング部

令和6年度全国高等学校レスリング選手権大会 男子団体・個人三階級出場

令和6年度全国高等学校選抜レスリング大会 男子個人二階級（3名）出場

◆水泳部

令和6年度全国高等学校選手権水泳競技大会 女子400m・200m個人メドレー出場

◆ハンドボール部

令和6年度中国高等学校ハンドボール新人大会 女子出場

令和7年度中国高等学校ハンドボール選手権大会 女子出場

◆アーチェリー部

令和7年度中国高等学校アーチェリー選手権大会 男女団体アベック出場

◆ソフトテニス部

令和6年度中国高等学校ソフトテニス新人大会 男子団体出場

◆野球部

令和7年度広島県春季高校野球大会出場

◆卓球部

令和6年度広島県高等学校新人卓球大会 学校対抗女子 団体A級ベスト8

◆陸上競技部

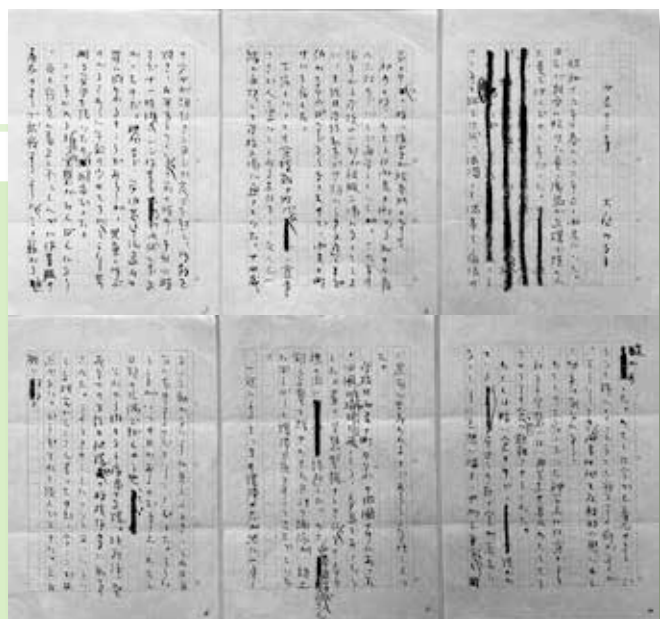
令和6年度広島県高等学校駅伝競走大会 女子第7位入賞



トピックス

本校の前身である賀茂高等女学校に在学した芥川賞作家 大庭みな子氏が、創立80周年（1986年）の年に本校へ寄せた自筆の書簡が図書室から見つかりました。

太平洋戦争の戦況が次第に悪化するなか、多感な青年期を過ごした西条そして賀茂高等女学校での思い出が、便箋六枚にしたためられています。



令和6年度(2025年3月)卒業生進路実績 (現役合格者延べ数)

【国立大学】	合格
鳥取大学	1
島根大学	2
広島大学	10
山口大学	2
徳島大学	1
愛媛大学	11
鹿屋体育大学	1
合 計	28

【公立大学】	合格
島根県立大学	1
新見公立大学	1
岡山県立大学	1
尾道市立大学	8
県立広島大学	11
福山市立大学	4
広島市立大学	11
周南公立大学	1
下関市立大学	3
山口県立大学	1
高知工科大学	1
北九州市立大学	3
合 計	46

【県内私立大学】	合格
近畿大学	123
広島文化学園大学	3
比治山大学	18
広島経済大学	10
広島工業大学	149
広島修道大学	98
広島女学院大学	5
広島文教大学	7
福山大学	7
福山平成大学	1
安田女子大学	36
広島国際大学	50
日本赤十字広島看護大学	3
広島都市学園大学	5
県内私立大学合計	515

【主な県外私立大学】	合格
専修大学	2
同志社大学	1
立命館大学	3
京都産業大学	9
関西大学	2
福岡大学	2
県外私立大学合計	63

【短期大学】	合格
女子美術大学短期大学部	1
関西外国語大学短期大学部	2
比治山大学短期大学部	3
山陽女子短期大学	1
合 計	7

【看護専門学校】	合格
河原医療大学校	1
岩国医療センター附属岩国看護学校	2
呉共済病院看護専門学校	2
呉医療センター附属呉看護学校	5
広島県立三次看護専門学校	1
合 計	11

【主な専門学校】	合格
広島酔心調理師専門学校	2
広島美容専門学校	2
合 計	4

【文科省所管外】	合格
水産大学校	1
中国職業能力開発大学校	1
広島県立広島高等技術専門校	1
合 計	3

広島県立賀茂高等学校創立120周年記念事業 募 金 趣 意 書

令和8年(2026年)創立120周年

皆様におかれましては、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、本校教育活動の充実及び発展のために、多大なる御支援と御協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

本校は明治39（1906）年、私立西条女学校として開設。その後、西条実科高等女学校、賀茂高等女学校へと名称を変えつつ教育活動を充実させ、賀茂台地における女子中等教育の拠点として発展して参りました。戦後、昭和23（1948）年の学制改革によって広島県賀茂高等学校となり、翌年には男女共学の地域総合高校として広島県西条高等学校が誕生。そして昭和28年（1953年）に現在の賀茂高等学校となりました。

令和8（2026）年に創立120周年を迎える本校は、創立以来、地域社会からの信頼、そして期待される学校として発展し、卒業生は29,000余名に及び、各界での活躍は多岐にわたっております。これも、ひとえに歴任教職員の皆様の御尽力と本校のために多大な御支援をいただいた同窓生及び保護者ならびに地域の皆様のおかげと深く感謝いたしております。

私達は、この120年という輝かしい歴史と先輩各位の業績を仰ぎ、賀茂高等学校のさらなる発展を祈念して、学校・P T A・同窓会の三者で「広島県立賀茂高等学校創立120周年記念事業実行委員会」を組織し、記念事業の推進に取り組んでいるところです。

このたびの記念事業においては、誇るべき120年の歴史を振り返るとともに教育環境の整備・充実に係る支援を行うことにいたしました。その一つが、多目的な利用が可能で、在校生及びP T Aならびに同窓生が集い、そして、つながるための施設として、竣工から30年余り経過した同窓会館の改修と整備を行う計画です。また、賀茂高等学校がこれまで培ってきた120年の歴史と伝統を礎に、その成果を未来へ繋ぐための各種記念事業（記念式典・記念講演、記念誌作成、関連サブイベント等）も実施する予定です。

つきましては、同窓生の皆様方、教職員・在校生保護者の皆様方におかれましては出費多端な折ではございますが、賀茂高等学校の発展及び本記念事業の推進を目的とする募金への御協力を心からお願い申しあげ、御挨拶とさせていただきます。

令和7年7月吉日

広島県立賀茂高等学校創立120周年記念事業実行委員会

委員長 川崎 信文（同窓会会長）

副委員長 森原 詳子（P T A会長）

副委員長 奥原 義尚（校長）

募 金 概 要

- 目 標 額 800万円（同窓生対象）
- 募 金 額 一口 3,000円以上
- 募金期間 令和8年11月30日まで
- 募金方法 同封の専用払込取扱票にて、お振込みください。

募 金 口 座

- ゆうちょ銀行

口座記号番号：01380-5-114042

口 座 名 称 広島県立賀茂高等学校同窓会

注1 この寄付金は、一般の寄付であり、個人の確定申告時の寄附金控除の対象や法人の損金算入の対象とはなりません。

注2 郵便局ないしはコンビニで受け取る受領証をもって領収書に代えさせていただきます。ご了承ください。

是非、多くの、そして心強いご協力をお願いいたします。専用払込取扱票の追加をご希望の方は、賀茂高等学校同窓会事務局までご連絡ください。

募金額1万円以上のご協力をいただいた皆様には、令和8年度末に発行予定の「創立120周年記念誌」（仮称）を送付させていただきます。



1階部分改修後イメージ

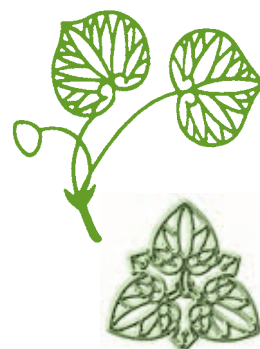


現 同窓会館外観

事務局からのお知らせ

～令和7年度 第72回同窓会総会について～

今年度の同窓会総会は8月24日(日)に東広島芸術文化ホール(くらら)小ホールにて開催します。総会第2部では、賀茂高校の校章(かもあおい)の基である「フタバアオイ」を神紋とする世界文化遺産 上賀茂神社(賀茂別雷神社)の宮司 高井 俊光 様からご講演をいただく予定にしております。当番回期の同窓生をはじめとして多くの皆様のご出席を願っております。当番回期(昭和50・60・平成7・15・25年)卒の皆様には案内ハガキを送付します。当番回期以外の皆様は同窓会ホームページに出席申し込みフォームを掲載しておりますので、そちらからお申込みください。また、お電話や電子メールでの申し込みも受け付けております。



～被爆そして戦争終結80周年を迎えて～

今年は敗戦そして被爆80周年となります。同窓会事務局では、賀茂高校現役生の協力のもと、先のアジア太平洋戦争中の学徒勤労動員や原爆投下後の広島市に入り、被爆者救援活動に従事した賀茂高等女学校生徒の体験を継承しています。それらの活動や残された手記は <http://pebeh.net> からご覧ください。右のQRコードからも読み取れます。また、戦争当時の写真や資料等でご提供いただけるものがありましたら、今後の継承活動に活用させていただきますので、事務局までご連絡ください。



～同窓会活動の活性化に向けて～

前回の会員名簿改訂から約3年が経過しております。氏名・住所等の変更ならびに物故連絡等がありましたら、お手数ですが、同窓会ホームページ「事務局への連絡」から会員情報の変更をおこなってください。お電話での連絡も受け付けております。

また、各年度の同期会やクラス会、クラブ部会等、会員交流の場を支援しておりますので、開催の際には事前に事務局までご連絡ください。



<https://dousoukai.site/kamo/> <https://dousoukai.site/kamo/>

編集後記

本来ならば昨年末に発行すべき「かもあおい」第16号ですが、来年度の周年行事に向けて全同窓生へ会報を送付させていただくということで、約半年遅れの発行となりました。私事ですが、賀茂高等学校で定年退職を迎えると同時に同窓会事務局を担当して6年目となりました。いつも近くで教育活動や生徒の様子を伺うにつけ、教職員の皆さんの献身的な姿、素直でひたむきに頑張る後輩たちの姿に、元気をいただく毎日です。

当同窓会は卒業(同窓会入会)時に終身の会費を納めていただいております。したがって毎年度の会の運営に係る収支状況は安定しておりますが、定期的に迎える周年行事の実施に際しては、会員の皆様からのご支援が不可欠となっております。本会報に掲載しました趣意書に重ねてのお願いで誠に恐縮ではありますが、会員お一人お一人のご理解とご厚情が結集し、結果的に母校の発展につながりますことを同窓会事務局としても心から期待しております。

(事務局長 大石秀邦)